



『全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ!』(要旨)

詩篇 100・1-5 説教者 原田憲夫

今週の聖句 エペソ 5・19-20

♪新年を迎えました。私たちは今日、神に招かれて御前に集っています。

詩篇 100 を通してその招きに応え、感謝しつつ、賛美しつつ歩み始めましょう!

【1】礼拝への招き (1,2)

- 1) 「主に向かって喜びの声をあげよ」
- 2) 「喜びをもって主に仕えよ」
- 3) 「喜び歌いつつ御前に来たれ」

▶「喜びの声、喜びをもって、喜び歌いつつ」・・・

この招きに応えること-主に礼拝をささげるために集まることは、「いのちがけ」?

→「クリスチャンたちは、一定の日の、まだ日が昇る前に集まる習慣があり、神としてのキリストに賛美歌を歌い、クリスチャンの教えにかなわないあらゆる習慣を捨てることを誓った。」

これは AD96 年クリスチャンを迫害した為政者の目に映った礼拝者の姿です。cf.21 讚美歌 148 番

【2】知れ 主こそ神 (3,4)

1) 礼拝をおささげする主とは… (3a)

- a) 「仕えよ」→「王なるお方」
- b) 「造られた」→「万物の創造者」

▶「主に仕える」とは、全身全霊で、王であり、創造者である主を賛美、主に感謝することなのです。

○使徒パウロは「勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えよ」(ロマ 12・11) と勧めています。

キリスト者の内に宿る聖霊が、みことばを通して働かれ、喜びの中でも悲しみの中でも内なる人をずっと燃え続けさせてくださいます。霊に燃え続け輝く人が「主に仕える」ことができるのです。

2) 牧者と羊-信頼の絆- (3b,4)

「信頼の絆」は4節の招きとなります。

- a) 感謝しつつ 主の門に
- b) 賛美しつつ その大庭に入れ。

▶主との間を隔てる主の門からその大庭へ、いとも容易に通る羊たち!

○ヨハネ 10・2-4 羊飼いは、

- ・「羊それぞれの名を呼んで連れ出す」
- ・「羊の先頭に立って行く」-恐れるな!

【3】「いつくしみ深い主」(4c,5)

▶「主に感謝し 御名をほめたたえよ。」

「感謝しつつ、賛美しつつ」は、「いつくしみ深く、永遠の恵みと真実の主を知る」(5) ことにかかっています。

▶私たちは神の息を吸ってはじめて「歌う」ことができます。→「パンの笛」

聖霊の息吹に触れ、聖霊に満たされる時、神への新しい歌を奏でることができるのです。

○新年の朝を迎えました。

いつになく夜明けが遅く感じられるような朝です。

だからこそ、羊飼いであるキリストのことばを内に宿し、「私」という自我を助け主である聖霊に明け渡していけますように!

全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ! (1)

さあ、喜び歌いつつ主の御前に行きましょう。感謝しつつ主の門に、賛美しつつその大庭に入り、霊に燃え、永遠の王なる主にお仕えしましょう!

▶今週の聖句; エペソ 5・19-20

19 詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。

20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。

*祈り

*賛美

